

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
Tel.5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

心がホッとする ほっとライ
ン ふれあい電話

「気軽に話がいんだけど」
「心に溜め込んでしまった気持ちを誰かに話したい」
「誰かに自分を理解してもらいたい」
「寂しいので誰かと会話をしたい」
「とにかく愚痴を聞いてもらいたい」

ふれあい電話（荒川区社会福祉協議会）
は、昭和51年に開設され、38年の歴史があります。

10名の相談員が、担当する会員の方に週1〜2回、こちらから電話をかけます。65歳以上の高齢者（ひとり暮らし・高齢者のみの世帯・日中独居の高齢者）が対象で、現在92名の方が利用されておりま

す。会費、電話代は無料です。年齢を重ねるにつれ、友人も少なくなつてきて、外出も体調の具合でできない。一日中、誰とも話をしなかつたという高齢者が増えてきています。

ふれあい電話は、社会と接点が少なく、自宅に引きこもりがち・孤立する方が、話すことで心をほっとできる時間を提供します。

「うまくお話しできるだろうか？」
大丈夫です。どんな内容であっても、

うまく表現できなくても、相談員はありのままの気持ちを受け止め、一緒に考えたいと思っています。

悔しいことは、きつと本当に悔しい事。悲しい事は、きつと本当に悲しい事。辛いことは、どんなことでも辛い事。楽しいと思うことは、きつと本当に楽しい事。喜ぶことは、とても幸せな事。望んでいる事は、心に大切に持ち続けること。

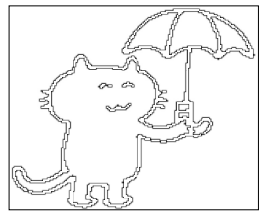
そんな態度で耳を傾けてくれる相手がいれば、もっと素直に自分に向き合えるかもしれません。その可能性を相談員と共に探していきましょう

相談員はボランティアの60代々の女性です。最高齢の91歳の相談員は、ふれあい電話開設時から38年間、多くの方たちに電話をかけてきました。

「思いやりの心を持って」
東日本大震災の時も自分の担当する方達が心配で電話をかけ安否確認をされてきました。台風でも大雪が降っても、荒川区社会福祉協議会に来て電話をかけています。

「絶対に相談内容が外部に漏れることはありません」
相談員は厳格な守秘義務を負っています。会員の方たちの相談の内容が他人に知られることはありません。

相談員が電話する場所は荒川区社会福祉協議会3階の仕切られた電話ボックスです。
相談員の声だけで相手の動きが見える話し方が、安心感につながります。
電話ボックスには相談員の優しい笑顔が見えました。
「電話する程のことじゃないかも……」
と、必要のない遠慮のようなものをしてしまうこともあるかもしれませんが。そんな緊張を解いてくれるのがベテラン相談員の柔らかな気持ちと声です。
「一歩前へ」
まずは、ふれあい電話にお問合せすることが大きな一歩なのだと思えます。
自分を知ってくれる人がいる。心配してくれる人がいる。
ふれあい電話は、心が温まるほっとラインです。人と人の繋がりは財産です。一歩踏み出し、心の財産を増やしませんか。



☆ふれあい電話（無料）☆
お問合せ・お申込み（月～金）
TEL (3802) 3338
FAX (3802) 3831
荒川区社会福祉協議会
地域ネットワーク課